

## 3月23日は世界気象デー - 今年のテーマは、「若者の未来に関わる天気と気候」 -

### 世界気象デーとは

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念し、毎年3月23日を世界気象デーとしてキャンペーンテーマを設けて、気象業務への国際的な理解の促進に努めています。

今年のキャンペーンテーマは、「若者の未来に関わる天気と気候」です。

原文は“ Weather and Climate: engaging youth”

### 今年のキャンペーンテーマについて

近年、地球温暖化及びそれによる気象や気候の変化への関心が高まっています。昨年9月には気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書第1作業部会報告書（自然科学的根拠）が公表され、気象庁もこの作成に積極的に協力してきました。この報告書においては、気候システムの温暖化については疑う余地がないこと、人間活動が20世紀半ば以降に観測された温暖化の主な要因であった可能性が極めて高いことが示されています。また、世界平均地上気温の上昇に伴って、ほとんどの陸上で極端な高温の頻度が増加することはほぼ確実であるとともに、中緯度の大陸のほとんどと湿潤な熱帯域において今世紀末までに極端な降水がより強く頻繁となる可能性が非常に高いことも示されています。

このように近年急速に理解が進んできた将来の気候予測によると、特に今日の若者のほとんどは、今世紀後半に増大すると予想される地球温暖化の影響を経験することになります。そこで、今年のキャンペーンテーマは、これからの未来を担う若者達が気象や気候の仕組みについてもっと多くのことを学び、気候変動への対応に貢献することを奨励するために選定されました。

WMOでは、このキャンペーンテーマに沿って若者向けのウェブページを公開しています（<http://www.wmo.int/youth/>）。気象庁においては、かねてから気象庁ホームページの中で「はれるんランド（<http://www.jma.go.jp/jma/kids/index.html>）」を公開しており、この中で地球環境についての解説も行っているところです。また、これまでも全国各地の気象台で教育委員会等と連携して学校での防災教育に取り組んできたところですが、去る3月5日には日本赤十字社と当庁の間で防災教育の普及等の協力に関する協定を締結し、今後、日本赤十字社と連携し、全国の小・中・高校等における防災教育に取り組んでいくこととしています。

世界気象機関（World Meteorological Organization : WMO）の概要

設立目的 気象業務に関する国際的な調整・標準化・改善や、気象情報の交換促進

設立 1950年（昭和25年）3月23日

事務局所在地 スイス・ジュネーブ

加盟構成員 185か国・6地域

（我が国は1953年（昭和28年）に加盟）

ホームページ <http://www.wmo.int/>

問い合わせ先：総務部企画課国際室

電 話：03-3212-8341(内線2267)